

# 日本における ハンバーガーチェーン店の 店舗展開の比較

1. 研究背景
  2. 研究目的
  3. 研究内容
  4. まとめ
  5. 考察
  6. 今後の課題
- 参考文献—  
Appendix

東海大学 情報通信学部  
経営システム工学科  
樋田 瞬

# 1. 研究背景①

～現状～

ファーストフード業界の市場規模は、  
約6800億円規模<sup>[7]</sup>

- 1996～2000年までは、右肩上がりの成長が続いていたが、2001年9月のBSE(狂牛病)の発生をきっかけに市場が縮小
- しかし2003年からは再び増加傾向にある業界<sup>[5]</sup>

# 1. 研究背景②

ハンバーガー業界誕生

資本の自由化によりマクドナルド、バーガーキングなどの外資系の企業が参入。それと同時期にモスバーガー、ロッテリアなど日本の企業も参入。

差別化戦略が必要

ボリュームのあるハンバーガーの販売や複数のメニューのセット販売の開始

ハンバーガー市場拡大

食事としての需要の獲得することや、価格競争によって成長<sup>[6]</sup>

# 1. 研究背景③

- 日本に出店しているハンバーガーチェーン店<sup>[7]</sup>

|             |        |
|-------------|--------|
| ▶ 日本マクドナルド  | トップシェア |
| ▶ モスフードサービス | 2位     |
| ▶ ロッテリア     | 3位     |

その他日本で展開しているハンバーガーチェーン店  
…バーガーキング、フレッシュネス、ウェンディーズ

マクドナルド、ウェンディーズ、バーガーキングは  
ハンバーガー消費量1位のアメリカでも人気のチェーン店<sup>[9]</sup>

上位の共通点 →

味に人気がある  
手ごろな価格で食事できる

# 1.研究背景④

シェアトップである マクドナルドの店舗数を  
取り上げてみると・・・

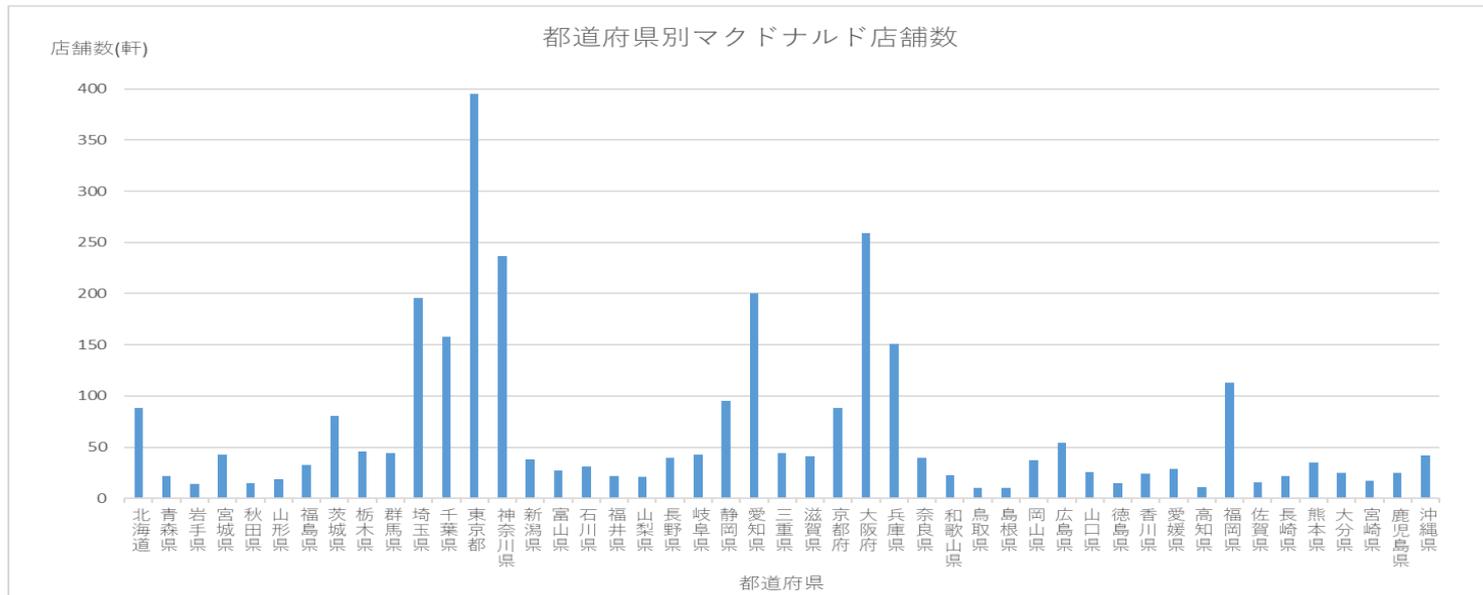


図2. 都道府県別マクドナルド店舗数[4]

結果：都道府県別で見ると、明らかに**東京が多い** [4]

# 1. 研究背景⑤

- マクドナルドがシェアトップでいる理由
- 安い、注文から提供までが早い
- × 品質に不安、添加物や塩分が多く健康に不安



他店との差別化、  
サービス・商品全てのもの  
対し手軽さを提供

・シェア2位のモスバーガー

価格は比較的高価だが居心地の良さや品質が人気<sup>[8]</sup>

# ✓対象とするハンバーガーチェーン店

## マクドナルド

世界展開している  
ハンバーガーチェーン店

**日本シェアトップ**

⇒店舗数は日本一である  
⇒単価は**安価**

・若年層ほどマクドナルド志向が強く、歳を経るほど支持率が低下する  
→安さの優先度がそのまま現れている

## モスバーガー

日本発祥の  
ハンバーガーチェーン店

**日本シェア 2位**

⇒ハンバーガーチェーンでは珍しい「国産牛肉」を使用

⇒**居心地の良い店づくり**  
⇒単価は比較的高価

・20代以降は**どの年齢層にも一定の支持率**<sup>[10]</sup>

日本シェア1位2位であるこの2店を比較する

## 2.研究目的

### 研究背景より

東京都は他県と比べ店舗の数が多  
⇒焦点を東京都23区にあてると、  
それぞれの店舗の数はまちまち

### 目的

対象の都道府県を東都23区に絞り、  
店舗が多い区と少ない区との違い、  
東京都23区の店舗展開の背景を探る

本研究ではマクドナルド、モスバーガーに  
対象を絞り、重回帰分析を行う

# データ概要

---

- 店舗数から比較するため、  
従属変数をマクドナルド、モスバーガーの  
それぞれの店舗数にする
- 変数(すべて23区別のデータ)  
人口、面積、人口密度、男性の人数、  
14歳以下の人数、15～64歳の人  
数、その区に在住している外国人人口(中国、  
韓国、アメリカ)、平均年収

# 3. 研究内容

- 店舗数に関連するデータを探り、データを把握する  
→ 今後の店舗展開の予測を行うため重回帰分析を行う

## <分析手順>

- ・重回帰分析(TIBCO Spotfire S+® 8.2J for Windows)
- ・マクドナルド/モスバーガー  
従属変数: マクドナルド店舗数/モスバーガー店舗数  
独立変数: 人口、面積、人口密度、男性人口、平均年収、  
14歳以下の人口、15~64歳の人口、  
中国、韓国、アメリカ

# 研究内容～分析結果①～

- マクドナルドの重回帰分析結果(Appendix図3より)

有意確率から、人口密度、15歳～64歳の人口、アメリカ人の人口を回帰式に用いる

決定係数 = 0.7921

回帰式  $y = 13.9703 - 0.0007x_1 - 0.0002x_2 + 0.0033x_3$

23区別の人口、面積、男性の人数、14歳以下の人数、中国人、韓国人の人数、平均年収データは店舗数に対する影響は小さいが、人口密度、15歳～64歳の人口、アメリカ人が在住している人口データは影響を与えている

# 研究内容～分析結果②～

- モスバーガーの重回帰分析結果(Appendix図4より)

有意であるデータは得られなかった

決定係数 = 0.5642

23区別の人口、面積、人口密度、男性の人数、14歳以下の人口、15歳～64歳の人口、中国人、韓国人、アメリカ人が在住している人口データ、平均年収データは店舗数に対する影響を与えている可能性が低い

## 4. まとめ

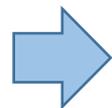
### ① 店舗展開の共通点



人口密度

モスバーガーも有意に近い項目だったため、  
人口密度が**高い**ほど、  
店舗数が多いと考えられる。

### ② 分析から見えた相違点



- ・マクドナルド：影響**大**
- ・モスバーガー：影響**小**

その区に  
在住している  
アメリカ人の  
影響か？

# 5. 考察

- ▶ マクドナルドはその区に在住している  
アメリカ人の人口の影響が大きい  
⇒ マクドナルドはアメリカが発祥のため、  
アメリカ人への**知名度が高く、**  
**人気**であることが理由として挙げられる。
- ▶ 人口密度が高いほど店舗数はマクドナルド、  
モスバーガー共に多い  
⇒ ハンバーガーチェーン店は店舗展開する際  
人口密度を一つの目安として  
考慮できるのではないか

## 6. 今後の課題

- ▶ 店舗展開の背景を見るため  
さらに変数を増やしていく必要がある
- ▶ 今後、顧客に対するアンケート調査から  
ハンバーガーチェーン店に対する  
意識調査をする



本研究では、東京都23区のみでの分析であったが  
**都道府県**に視野を広げ店舗展開の背景を探る必要がある

# 参考文献

- [1]都内区市町村マップ:  
[http://www.metro.tokyo.jp/PROFILE/map\\_to.htm](http://www.metro.tokyo.jp/PROFILE/map_to.htm) (最終閲覧日 2016/10/26)
- [2]特別区の統計:<http://www.research.tokyo23city.or.jp/34toukei01.html> (最終閲覧日 2016/10/26)
- [3]東京都の統計  
<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/gaikoku/2015/ga15010000.htm> (最終閲覧日 2016/10/26)
- [4]マクドナルド公式サイト:  
<https://map.mcdonalds.co.jp/> (最終閲覧日 2016/10/26)
- [5]<<---Fact-gathering.com--- 業界動向 :  
<https://sites.google.com/site/3cdategyoukaijouhou/home/fasuto-fudo-gyoukai-deta>  
(最終閲覧日 2016/10/26)
- [6]モスバーガー公式サイト:  
[http://www.mos.co.jp/company/outline/store\\_data/](http://www.mos.co.jp/company/outline/store_data/)(最終閲覧日 2016/10/26)

# 参考文献

- [6]ハンバーガー業界: [http://www.fseminar.com/kgu/uploads/sotsuron\\_e9th\\_humberger\\_final.pdf](http://www.fseminar.com/kgu/uploads/sotsuron_e9th_humberger_final.pdf)  
(最終閲覧日 2016/10/26)
- [7]企業研究ハンバーガー: [http://researchforsafeinvest.blogspot.jp/2010/01/blog-post\\_28.html](http://researchforsafeinvest.blogspot.jp/2010/01/blog-post_28.html)  
(最終閲覧日 2016/10/26)
- [8]好きなバーガーチェーンのお店は?:  
[http://ranking.goo.ne.jp/ranking/category/028/product\\_LgnbAUFxqhgS\\_all/](http://ranking.goo.ne.jp/ranking/category/028/product_LgnbAUFxqhgS_all/) (最終閲覧日 2016/10/26)
- [9]gigazine: <http://gigazine.net/news/20130216-american-fastfood/>(最終閲覧日 2016/10/26)
- [10]garbagenews.net:  
[http://www.gamenews.ne.jp/archives/2008/09/post\\_3916.html](http://www.gamenews.ne.jp/archives/2008/09/post_3916.html) (最終閲覧日 2016/10/26)
- [11]石崎 研二, ”企業行動からみたファーストフード店の立地展開(The Geographical Development of Fast Food Stores in Tokyo City Area from the Viewpoint of Locational Policy)“, 経済地理学会, 経済地理学年報, 362 p129-140, 1990

# Appendix①

- 重回帰式

- ▶ マクドナルド  $x_1$  =人口密度、  
 $x_2$  =15歳～64歳の人口、  
 $x_3$  =アメリカ人が在住している人口
- ▶ モスバーガー

- データについて

- ▶ マクドナルド、モスバーガー店舗数:(2016)
- ▶ 23区、男女人口、外国人人口:(2015)
- ▶ 年齢層:(2014)

# Appendix②

```
*** Linear Model ***  
Call: lm(formula = `マクド` ~ `人口` + `人口密度` + `面積平方km` + `男` + X14 +  
X1564 + `中国人` + `韓国人` + `アメリカ人` + `平均年収`, data = SDF12,  
na.action = na.exclude)  
Residuals:  
Min      1Q  Median      3Q      Max   
-2.53 -0.9805 -0.4457  0.8743  3.416  
Coefficients:  
                Value Std. Error  t value Pr(>|t|)   
(Intercept)  13.9703   7.9206   1.7638  0.1032  
  `人口`      0.0000   0.0001   0.4756  0.6429  
  `人口密度` -0.0007   0.0003  -2.5383  0.0260  
 `面積平方km` -0.2541   0.2298  -1.1057  0.2905  
    `男`      0.0002   0.0002   1.2903  0.2213  
    X14      -0.0001   0.0001  -1.4078  0.1846  
   X1564     -0.0002   0.0001  -2.2614  0.0431  
  `中国人`   0.0002   0.0003   0.6359  0.5368  
  `韓国人`   0.0003   0.0003   0.7730  0.4545  
 `アメリカ人` 0.0033   0.0011   2.9180  0.0129  
  `平均年収` 0.0000   0.0000   0.1972  0.8470  
Residual standard error: 2.108 on 12 degrees of freedom  
Multiple R-Squared: 0.7921    Adjusted R-squared: 0.6189  
F-statistic: 4.573 on 10 and 12 degrees of freedom, the p-value is 0.007774
```

図3.マクドナルドのS-plusによる重回帰分析結果

# Appendix③

```
*** Linear Model ***  
Call: lm(formula = V12 ~ V2 + V3 + V4 + V5 + V6 + V7 + V8 + V9 + V10 + V11, data =  
SDF13, na.action = na.exclude)  
Residuals:  
Min      1Q  Median      3Q      Max   
-3.267 -1.09  0.06421  1.095  4.047  
Coefficients:  
                Value Std. Error t value Pr(>|t|)   
(Intercept)    8.1318   8.8650    0.9173  0.3771   
  `人口`       -0.0001  0.0001   -0.7264  0.4815   
  `人口密度`   -0.0005  0.0003   -1.5391  0.1497   
  `面積平方km` -0.3516  0.2572   -1.3672  0.1966   
  `男`         0.0002  0.0002    0.8983  0.3867   
    X14        -0.0002  0.0001   -1.7202  0.1111   
    X1564       0.0001  0.0001    0.7108  0.4908   
  `中国人`     0.0002  0.0003    0.7368  0.4754   
  `韓国人`    -0.0002  0.0004   -0.6633  0.5197   
  `アメリカ人` 0.0008  0.0012    0.6794  0.5098   
  `平均年収`   0.0000  0.0000    0.0974  0.9240  
Residual standard error: 2.359 on 12 degrees of freedom  
Multiple R-Squared: 0.5642    Adjusted R-squared: 0.201  
F-statistic: 1.554 on 10 and 12 degrees of freedom, the p-value is 0.2322
```

図4.モスバーガーS-pulsによる重回帰分析結果